

2025年度 学修プログラム評価報告書

藤田医科大学医学部
学修プログラム評価委員会

2025年10月6日に実施した学修プログラム評価委員会での議論を受け、藤田医科大学医学部の学修プログラム評価について以下のとおり報告する。

昨年度の学修プログラム評価について

1. 2024年度年次報告書について

- ① 教育プログラムの構造としての関連する科学・学問領域および課題の水平的統合および基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合の理解を深めるためのFD・SDプログラムの作成を進めるのが望ましい。

2. 教育課程の変更について

- ① 5年生の臨床実習中のアンプロフェッショナル（以下、アンプロ）行為への対応として、アンプロ認定を受けた学生が学外実習の対象外になるのはやや厳しい印象である。医師としての資質、特に倫理面での問題行動の背景には、学生自身の発達上の特性や何らかの要因が潜在している可能性も考えられる。そのため、厳しい要件を設定し、更生の機会や再挑戦のチャンスを奪いすぎないよう柔軟な対応を検討する必要がある。
- ② 2026年度からの授業時間の短縮において、事前学習形式は個人差が出てしまうのではないかと危惧する。また、事前学習の内容を小テスト等で確認する場合、授業時間が短くならないようにすべきである。

3. 昨年度からの進捗について

- ① 臨床推論やプレゼンテーションの練習の機会として、PBLをさらに有効活用できるように改善すべきである。
- ② 現在、大学においても総合診療医を育てようというのが潮流であり、大学の評価、大学院の評価としても総合診療医をどれだけ育てたかという点を組み込む流れであるため、引き続き総合診療医を育てるという観点での取り組みを期待する。

4. 評価指標について

- ① 研究医養成に係る資料中の自大学出身の基礎系・社会医学系大学院進学者を示した表については、入学前の修了学位の種別や医師かそれ以外かなど各数値の定義を明確にして示すことで、プログラム評価においてより有用となると感じる。

その他

- ① 学生の意見がカリキュラムに反映されていて良いと思う。
- ② 授業時間の短縮については、人によって自己学習能力に差があるため、学生同士の差が

開いてしまわないか懸念する。自ら勉強をしない学生もいるため、振り返るタイミングがあると良いと考える。

- ③ 生成 AI の利活用について、病院内で医師が利用している場面が見受けられる。利用禁止ではなく、学習効率を上げるために正しく有効に活用できるように何か教育があるといいと思う。
- ④ 医学部卒業コンピテンス・卒業コンピテンシーのパフォーマンスレベル（到達度）の設定については、JACME では臨床研修の修了時までを一つのプログラムとしてアウトカムの到達度を考えようとしている。レベル 4 を設定し、研修医で藤田に残った卒業生には流れを提示し、臨床研修から藤田に入った研修医にもアウトカムとしてのレベルを提示しシームレスな教育を考えていくことを期待する。
- ⑤ 来年度入学者からの学費の値下げに伴い、学生の質が変わるため、入学者に医者になるイメージを持たせることが大切である。早期に様々なロールモデルを見せることが必要であり、燃え尽き症候群の学生の対策をするべきである。
- ⑥ 学修目標をうまく設定しながらしているので、向上心のある学生は付いていきやすいカリキュラムになっていると思う。
- ⑦ 自分で掘り下げる力や聞く力についてかなり改善されていると感じた。藤田の評判がよくなっているため、若い人の発言を取り入れていっていただき繋げてほしい。
- ⑧ 医学教育の後の課題として、THE (Times Higher Education) World University Rankings では、藤田は日本の大学でも高位にランクされているが、最高位の大学は自学医学部卒業生のみならず、他大学の医学部・医療系学部・理/工/農/生命科学/学部からの大学院生も多い。他大学の医学部卒業生よりも本学卒業の大学院生が比較的に多いが、本学大学院研究科の学生の一層の増加がのぞまれる。

以上